

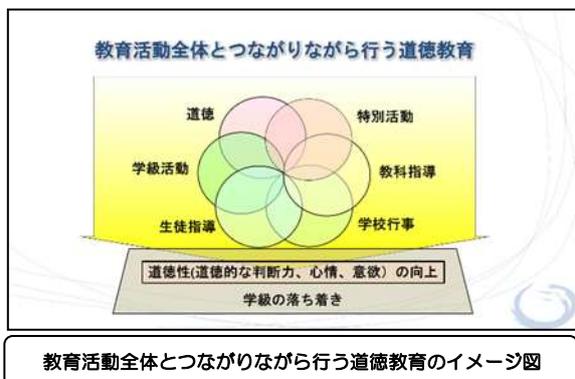
| | | | |
|-------|----|-------|---------------------|
| 5 | 小牧 | 味岡中学校 | カトウ セイヤ 氏名 加藤 聖也 |
| 分科会番号 | 特 | 分科会名 | 「特別の教科 道徳」特別分科会 |

研究題目 自ら考え、よりよい生き方を見つける道徳教育

～パッケージ型ユニットの実践を通じた気付きからの成長を目指して～

1 主題設定の理由

本研究会では、令和2年度より「教育活動全体とつながりながら道徳教育を行う」という共通理念を大切にしながら研究の実践をしている。道徳的諸価値を補充・深化・統合していくために、道徳の時間を要として、他の教育活動と関連させながら行う「パッケージ型小単元」の実践を今年度も引き続き行っていく。



本学級の生徒は、与えられた仕事や役割を着実に果たすことができる生徒が多い。しかし、その行動の価値や良さには気付いていない。ただ目先のことをやるだけになってしまい、関連するその他の活動へとつながっていかず、主体的な行動ができる生徒は少ない。そこで、生徒たちが身近に溢れる道徳的問題に気付き、自ら考え、道徳的価値を見出し、よりよい生き方を見つけることが必要だと感じたため、本主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 研究の仮説

- 【仮説1】 学校の教育活動全体の中で様々な場や機会を捉え、多様な方法により進められる学習を通して、生徒たちは、調和的な道徳性を養うことができるであろう。
- 【仮説2】 教育活動全体を通じた道徳教育によって生まれた気づきや認識の変容がもたらした言動の変化を教師が的確に捉え、広く共有するなどすることで、生徒の道徳的実践意欲の向上を目指すことができるであろう。
- 【仮説3】 教育活動全体で生徒が発見した道徳的問題を授業における道徳的価値と関わらせる中で考えを深めさせれば、生徒自らの道徳的資質や能力を高めることができるであろう。

(2) 研究の内容

【仮説1に迫る手立て】

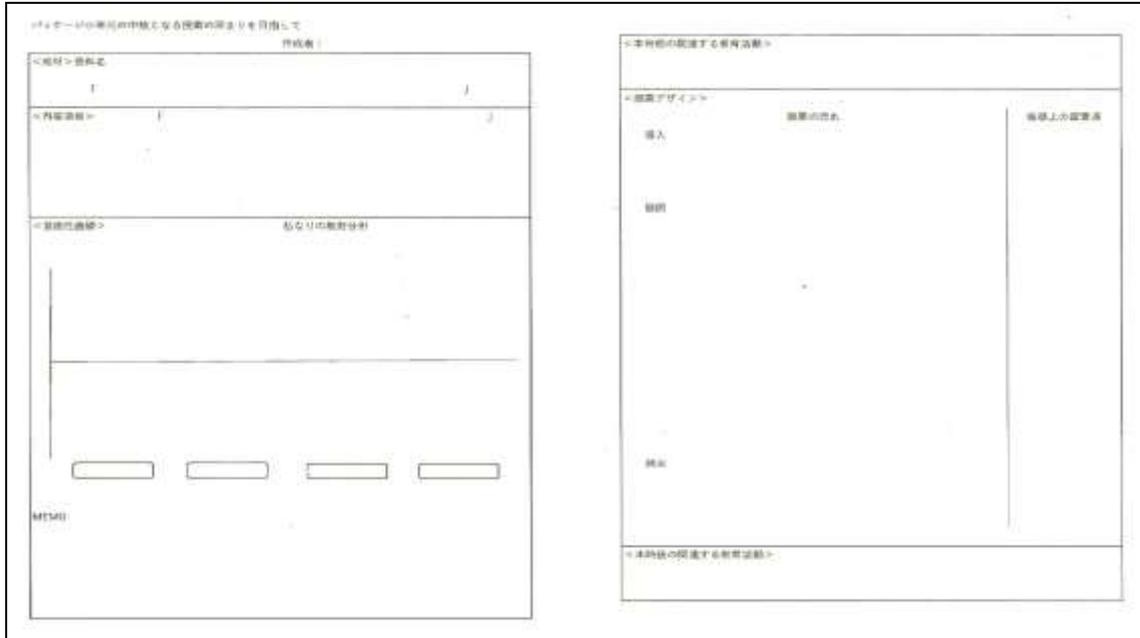
- ・ 「パッケージ型小単元」でつくる道徳授業
単元の中核をなす道徳の授業と特別活動、各教科など、学校の教育活動全体を通して道徳教育を行うため、学期ごとにパッケージ型小単元を構成する。

【仮説2に迫る手立て】

- ・ 生徒の道徳的実践意欲の向上を目指す活動
道徳の授業内では補いきることのできない部分を、掲示物等を利用して日常の中で補完する。

【仮説3に迫る手立て】

- 「パッケージ型小单元」の中核を担う道徳授業の深まりを目指して
道徳性曲線を使った授業デザインシートを活用し、授業で取り扱う教材における中心人物の道徳的心情の変化をグラフで可視化する。大きな心情の変化があった場面や葛藤する場面を可視化したグラフから捉え、発問を工夫することで、生徒の道徳的価値の深い理解につなげる。

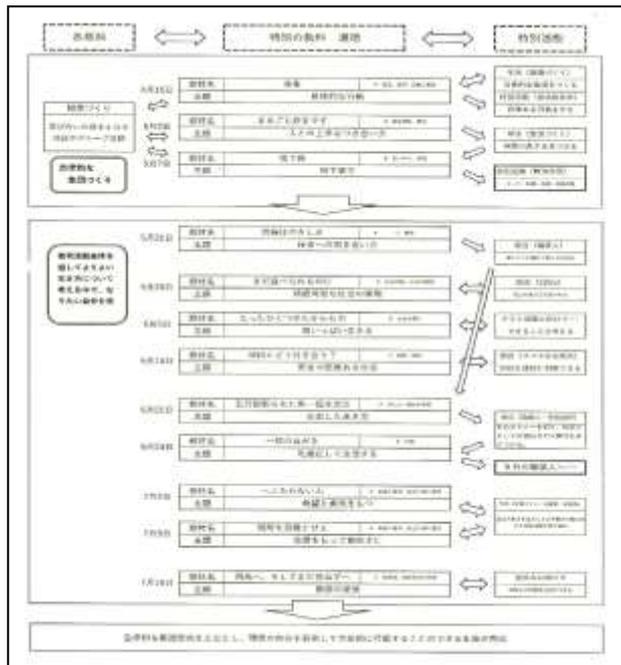


3 研究の実際

(1) 「パッケージ型小单元」でつくる道徳授業について

自律的な集団形成を土台とし、理想の自分を目指して主体的に行動することのできる生徒の育成のため、パッケージ型小单元を構成した。特別活動や学び合いの基本となる対話やグループ活動を通して、身近な道徳的問題に気付かせ、それを道徳科授業で取り扱う道徳的価値との関わりの中で考えを深めさせることをねらいとしている。

学級が始まって1か経った5月上旬の気が抜けがちの時期、心ない言葉がけや環境の乱れが学級で目立つようになっていた。その時期に「地下鉄で」の授業を行ったことで、生徒たちは、他者や物を大切にする心や態度を見直し、よりよい生き方について考え、それを行動に移すことができた。



令和6年度中学2年1学期に作成したパッケージ型小单元

(2) 生徒の道徳的実践意欲の向上を目指す活動について

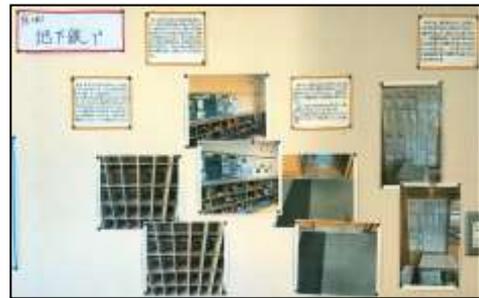
「清掃はやさしさ」の授業では仕事や自分の役割について考えた。その翌日、学級

通信を発行し、一部の生徒のふり返りを紹介したり、道徳科の授業で考えたことを実践している様子を伝えたりした。このように、道徳的価値観の再認識を図ったことで、清掃や係活動に対する意識が向上し、工夫して諸活動に臨めるようになった。

「地下鉄で」や「先輩」の授業では、導入で、生徒たちの身の回りの環境を実際に撮影した写真（環境が乱れているもの）を利用した。授業後、同じ場所を撮影した写真（授業前よりきれいになっているもの）を掲示したことで、「僕がやったんだよ。」や「変わっていないから、行動しよう！」と掲示物を前に級友と話す様子があった。さらに継続的に写真を撮影し、掲示を続けたことで、床に落ちたごみをすかさず拾ったり、自分のものだけでなく他者のスリッパをきれいに整頓したりするなど、明らかな行動の変化が見られた。



「清掃はやさしさ」のふり返りの紹介



「地下鉄で」で利用した掲示物



「先輩」で利用した掲示物

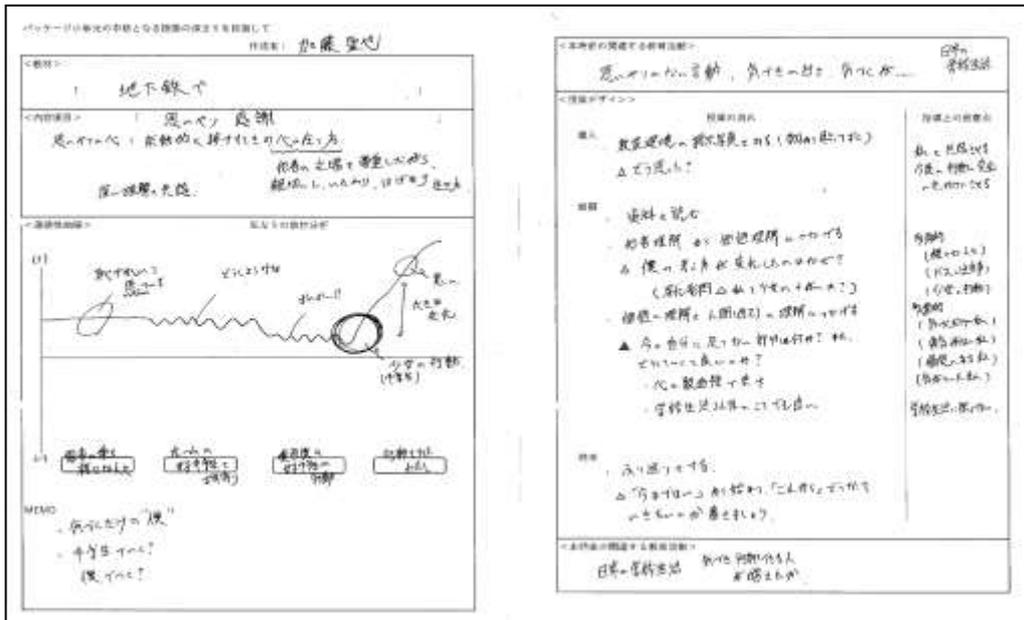
(3) 「パッケージ型小単元」の中核を担う道徳授業について

「地下鉄で」の授業デザインシートを作成した。シート内の道徳性曲線において、もっとも大きな変化があった箇所を発問にしたことで、本教材における価値の理解を深めることができた。「自分もやってみるという気持ち」「気づきを行動に移す勇氣」に主人公の僕は気が付いたのではないかという意見が出たところで、心の数直線を利用しながら自分自身について考えたところ、生徒たちは実体験を交えながら自分自身を見つめ直し、今後の自分について考えることができた。

今までは、見返すと気づきが甘かったのかなと思ひ、特に体育で着替える時にカーテンをしめなかつた、気づかなかつたり、清掃がない時でも、昼休憩の使い方を有効的に使えなかつたり。
まず、気づくのが大事なと思うので、周りをながら生活していこうと思ひます。
後、この単元でも習った通りに気づくだけじゃ意味がないので、行動に移していこうと思ひます。

前バスに乗った時にその時は自分は座っていて、途中でお年寄りの人が乗ってきたときに、座るか迷っていてでも一緒にいた友達が先に譲っていたのを見てそのときすごく後悔したのを覚えているから、気づくのも大切だけどそのあとの勇氣を出して行動するのも大切だと思ひました。だからこれからは何かをするにも勇氣を出して行動していこうと思ひました。

「地下鉄で」の生徒の振り返り



「地下鉄で」の授業デザインシート

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

教育活動全体を通じた道徳教育を心がけたことで、本学級は、6月下旬に行った「hyper Q-U」で親和的なまとまりのある学級集団と判定された。配慮や関わりのスキルも全国平均を上回る結果となった。特に、「みんなで決めたことには従っている」という質問に対して9割の生徒が「そうだ。」と回答している。生徒たち自らが身近にある道徳的問題に気づき、その解決に向けて考え、実践しようとする活動を特別活動や道徳科の授業で積み重ねてきた成果だと思われる。また、「自分もクラスの活動に貢献していると思う」という質問に対しても8割の生徒が「そうだ。」と回答している。道徳教育によって生まれた気づきや認識の変容がもたらした言動の変化を教師が的確に捉え、広く共有したことで、道徳的実践意欲の向上だけでなく、自己肯定感を高めることにもつながっているのではないかと考える。

(2) 研究の課題

- ・ 「パッケージ型小単元」における各教科との関連性

道徳科の授業と特別活動を関連させることは意識できたが、各教科の授業と関連させることが困難であった。学び合いでの対話やグループ活動での関わりに留まらず、授業内容との関連を図っていきたい。

- ・ 価値の理解を深める道徳授業の展開

「地下鉄」での授業の際、教師の舵取りや授業デザインが甘く、生徒が生み出した納得解が内容項目「思いやり、感謝」に深く迫るものだったのか自信がない。様々な先生方の授業を見たり、OJTをしながら教材研究を行ったりすることで、自身の研鑽を重ね、授業力を向上させたい。